

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成29年1月17日～20日に陸奥湾4定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバ等の出現数

(1) キヌマトイガイ(コメガキ)

ラーバは、奥内沖で2.5個体/m³、久栗坂沖で75.6個体/m³、川内沖で403.1個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは、奥内沖で15.0個体/m³、久栗坂沖で16.7個体/m³、川内沖で20.3個体/m³見られました(表1、図3)。

(3) その他

オベリア(クサ)のクラゲが久栗坂沖で0.6個体/m³、川内沖で0.8個体/m³見られましたが、ユウレイボヤのラーバは見られませんでした(表1)。また、11月から全ての定点で全長2mm前後のアミクサ(海藻)の小片(切れ端)が見られています(図4)。

2 水温の状況

各ブイ中層の1月23日の日平均水温は、表2のとおりで、西湾では7～9℃台、東湾では4～6℃台です。

3 今後の見込み

(1) キヌマトイガイ

ラーバ出現数が昨年同時期と同じように増加したため、付着が進むと思われます。

(2) ムラサキイガイ

4定点でラーバの出現が終息したため、今後、春にかけての付着は少ないと思われます。

(3) その他

秋の分散後におけるユウレイボヤのラーバ出現数は少なかったため、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。

オベリア類のクラゲが見えてきたので、今後、春にかけて付着する可能性があります。

アミクサは寒天を固くする材料になっている

紅い海藻(写真)です。パールネットに小片が入り込むとそれが成長するため、アミクサの小片が多く見られる地区では、今後、夏にかけて繁茂する可能性があります。

表1 ラーバ等の出現数 単位:個体/m³

調査地点	調査月日	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア
蟹田沖	H29.1.20	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H29.1.17	2.5	15.0	0.0
久栗坂沖	H29.1.18	75.6	16.7	0.6
川内沖	H29.1.18	403.1	20.3	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

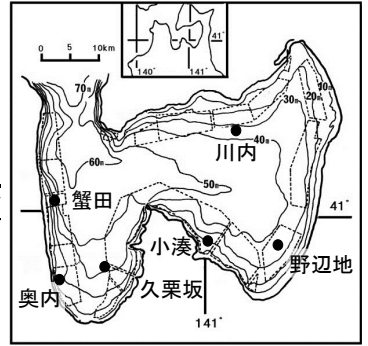


図1 ラーバ調査地点

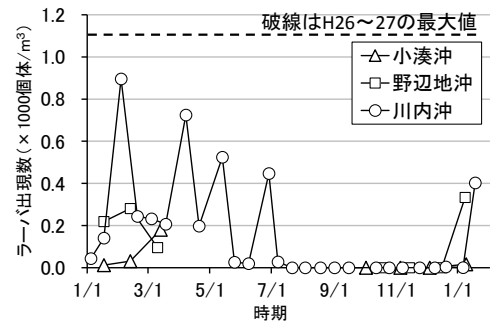
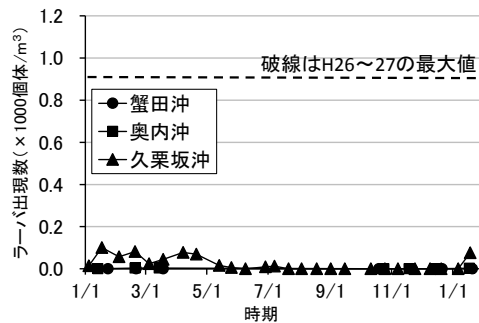


図2 キヌマトイ ラーバ 出現数の推移 (平成28年1月～平成29年1月)

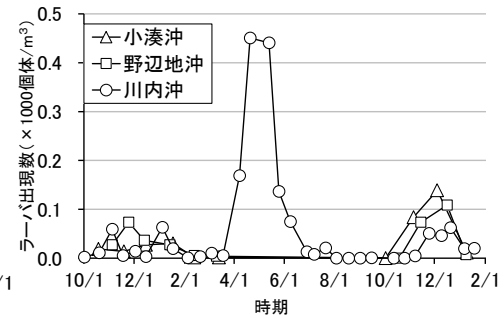
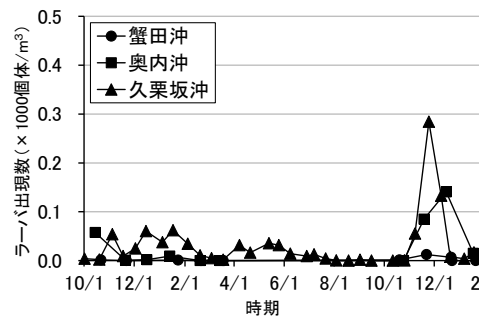


図3 ムラサキイ ラーバ 出現数の推移 (平成27年10月～平成29年1月)

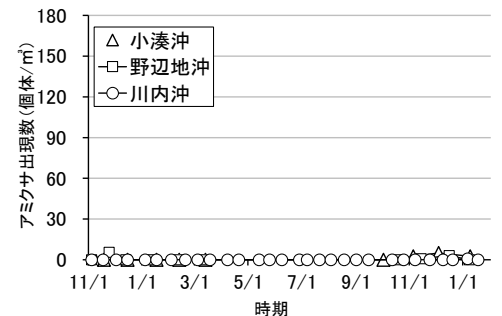
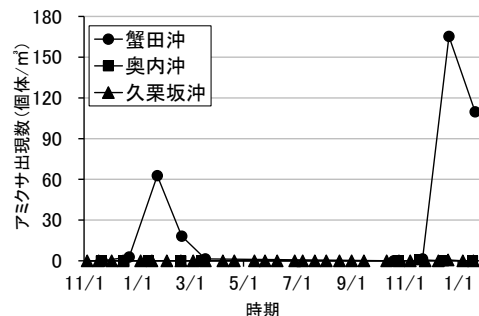


図4 アミクサ小片の出現数の推移 (平成27年11月～平成29年1月)

表2 各ブイ中層の日平均水温

西湾観測地点	水温(°C)	東湾観測地点	水温(°C)
平館ブイ	9.6	東田沢ブイ	-
蓬田ブイ	9.6	野辺地ブイ	6.2
奥内ブイ	8.1	横浜ブイ	4.2
青森ブイ	7.3	浜奥内ブイ	4.1
浦田ブイ	-	川内ブイ	5.4
		東湾ブイ	5.1

※平館、青森、東湾は15m層、それ以外は10m層



写真 パールネットに繁茂したアミクサ(6月)



①



②